

札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [調査概要]

調査の概要

○調査目的

札幌市におけるヤングケアラーと思われる子どもを正確に把握するため、中学生や高校生、市立学校に対して実態調査を実施し、教育現場や要保護児童対策地域協議会等においてヤングケアラーと思われる子どもを早期発見し、支援につなげる仕組みづくりの検討を行うための資料とする。

○調査構成

- ① 中高生の生活実態に関するアンケート調査（生徒用）
- ② 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査（学校用）

○調査期間

令和3年11月12日（金）～12月10日（金） ※当初予定の調査期間（11月30日（火）まで）を延長

① 中高生の生活実態に関するアンケート調査

○調査対象（約51,100人）

- ① 市立中学校に在籍する生徒（約43,600人）
- ② 市立高等学校に在籍する生徒（約6,300人）
- ③ 市立中等教育学校に在籍する生徒（約900人）
- ④ 市立特別支援学校に在籍する中学部・高等部の生徒（約300人）

○調査方法

各学校を通じて生徒に調査依頼文を配布するとともに、配布時に教員から生徒へ調査の趣旨等を説明。回答は任意。WEB環境にない生徒等には紙媒体の調査票を配布し、返信用封筒で回収。

○有効回答数（回収率）

中学生：3,018件（6.9%）
高校生：826件（11.6%）
計：3,844件（7.5%）

② 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

○調査対象（112校）

- ① 市立中学校（99校）
- ② 市立高等学校（7校）
- ③ 市立中等教育学校（1校）
- ④ 市立特別支援学校（5校）

○調査方法

調査票を配布し、返信用封筒で回収。

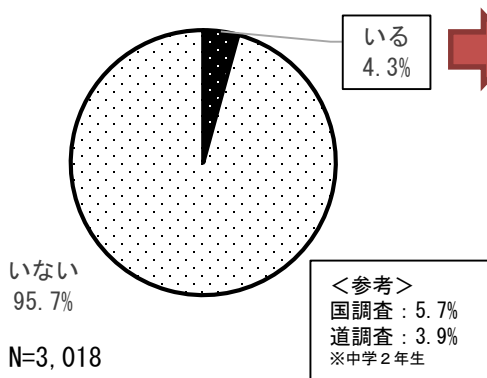
○有効回答数（回収率）

111件（99.1%）

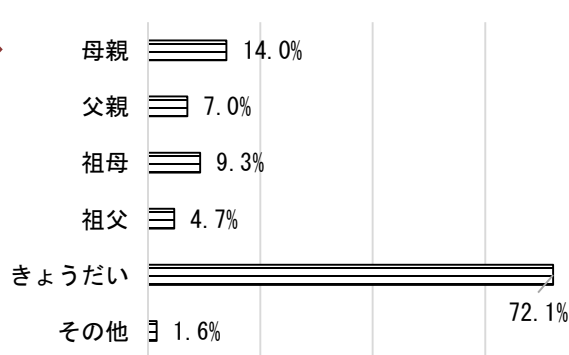
札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [中高生]

【中学生】 自分がお世話をしている家族が「いる」と回答した人（ヤングケアラー）は4.3%

自分がお世話をしている家族



世話をしている家族の内訳（複数回答）

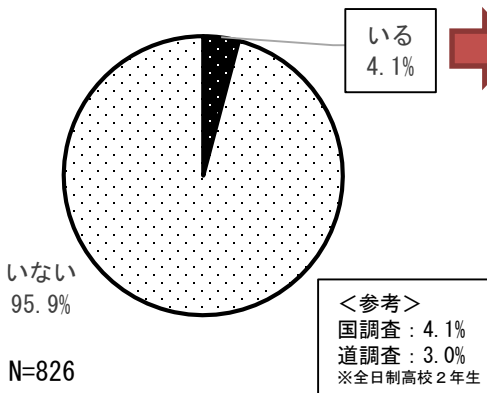


お世話をしている人の状況と自分が担う役割（複数回答）

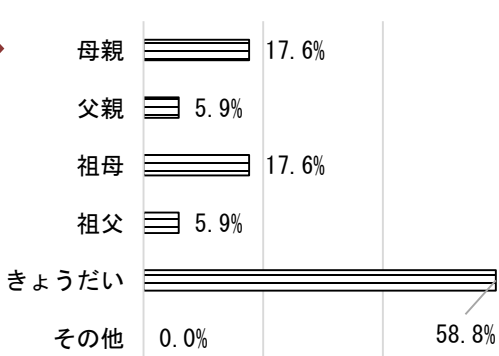
		母親	父親	祖母	きょうだい
お世話をしている人の状況	① 精神的な病気	65.2%	身体が不自由 46.7%	高齢 97.4%	幼い 73.6%
	② 身体が不自由、依存症、病気やけが	17.4%	依存症 26.7%	認知症 31.6%	知的障がい 14.3%
	③ 発達障がい	8.7%	要介護 20.0%	要介護、身体が不自由、病気やけが 21.1%	身体が不自由 11.4%
担っている役割	① 感情面のサポート	72.2%	見守り 55.6%	外出の付き添い 66.7%	見守り 69.9%
	② 家事	50.0%	感情面のサポート 44.4%	見守り 50.0%	感情面のサポート 60.2%
	③ 見守り	38.9%	家事 33.3%	家事 41.7%	きょうだいの世話や保育所等への送迎など 48.4%

【高校生】 自分がお世話をしている家族が「いる」と回答した人（ヤングケアラー）は4.1%

自分がお世話をしている家族



世話をしている家族の内訳（複数回答）



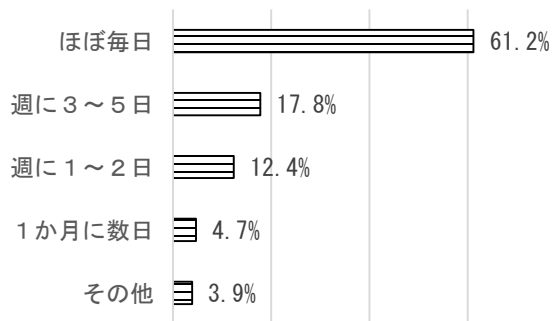
お世話をしている人の状況と自分が担う役割（複数回答）

		母親	父親	祖母	きょうだい
お世話をしている人の状況	① 精神的な病気	50.0%	身体が不自由 50.0%	高齢 100.0%	幼い 60.9%
	② 身体が不自由	37.5%	病気やけが 25.0%	認知症 23.1%	発達障がい 21.7%
	③ 幼い、要介護	25.0%		身体が不自由、病気やけが 15.4%	身体が不自由、知的障がい 13.0%
担っている役割	① 家事	100.0%	家事、外出の付き添い、薬の管理 50.0%	外出の付き添い 66.7%	見守り 65.0%
	② 外出の付き添い	66.7%		感情面のサポート、見守り 33.3%	感情面のサポート 50.0%
	③ 感情面のサポート、見守り	50.0%		家事、病院への付き添い、家計のサポート 16.7%	家事 45.0%

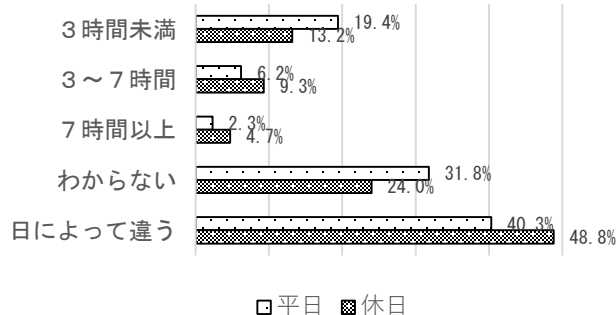
札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [中高生]

【中学生】お世話の頻度は「ほぼ毎日」、時間は「日によって違う」が多く、時間の制約が多い

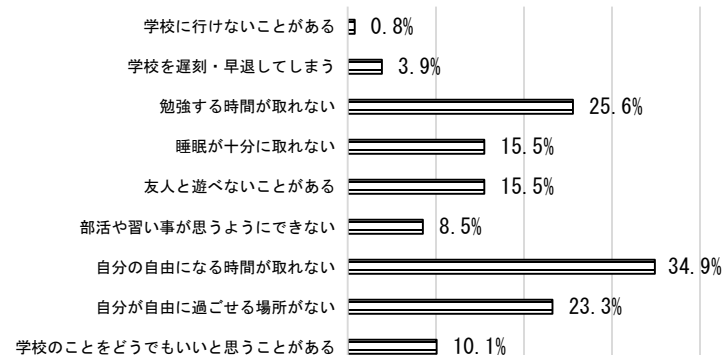
お世話の頻度



お世話の時間

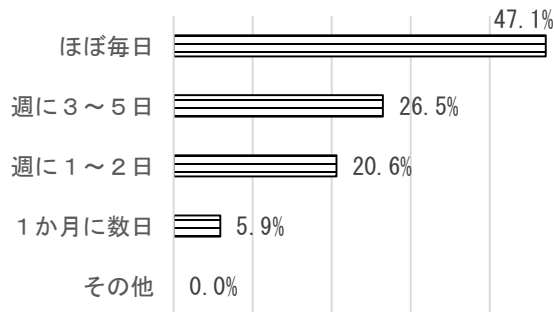


生活への影響など（複数回答）

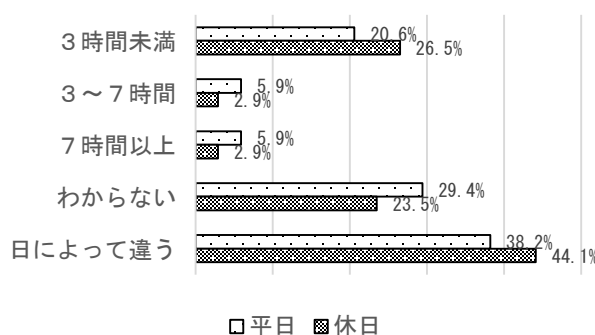


【高校生】傾向は中学生と同様だが、「自由に過ごせる場所がない」と回答した割合が比較的高い

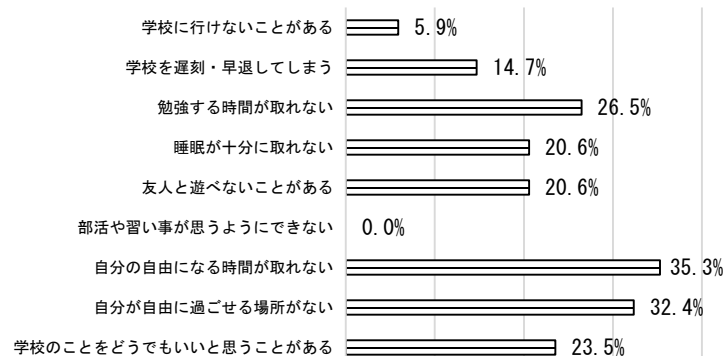
お世話の頻度



お世話の時間



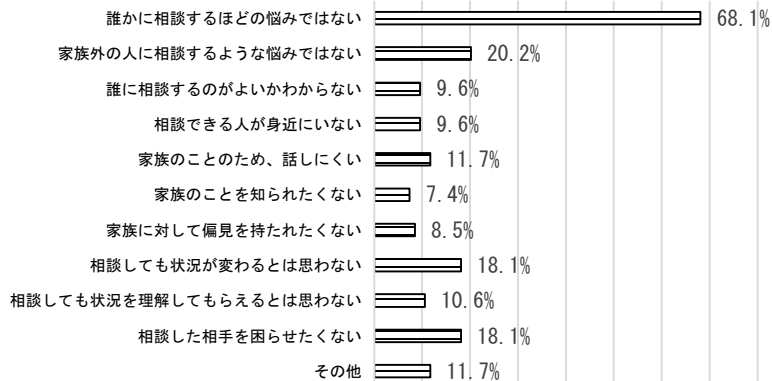
生活への影響など（複数回答）



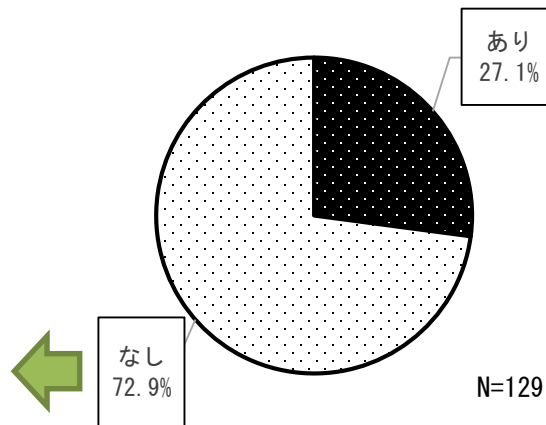
札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [中高生]

【中学生】 約7割は相談経験がなく、「誰かに相談するような悩みではない」と回答した割合が高い

相談していない理由（複数回答）



お世話の悩みを相談した経験

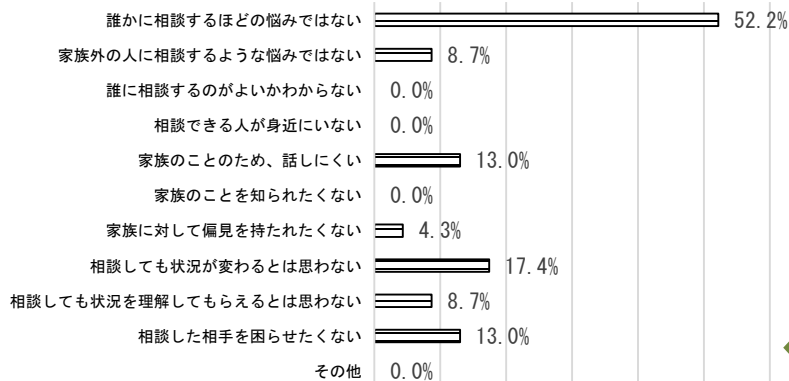


相談した相手、現状を知っている人（複数回答）

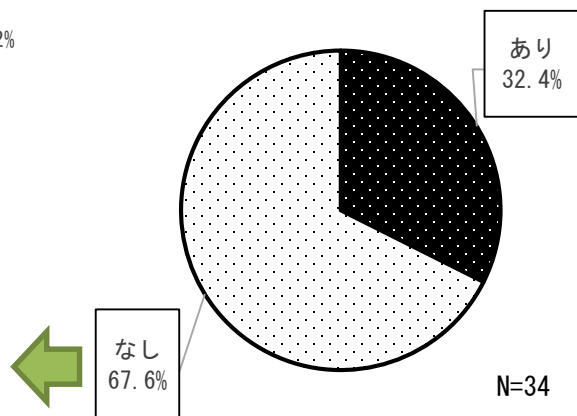
	相談した相手	現状を知っている人
家族	74.3%	-
しんせきの人	2.9%	44.2%
友人	42.9%	-
学校の先生	17.1%	34.1%
保健室の先生	5.7%	7.0%
SSW, SC	8.6%	3.1%
相談窓口（電話）	0.0%	-
相談窓口（SNS、メール）	2.9%	-
医師、看護師等病院の人	8.6%	5.4%
ケア、福祉サービスの人	2.9%	7.0%
役所、保健センター	0.0%	-
近所の人	0.0%	-
SNS上の知り合い	5.7%	4.7%
その他	2.9%	10.1%
知っている人はいない	-	33.3%

【高校生】 相談経験のある子どもの割合が比較的高く、相談相手は「家族」や「友人」の割合が高い

相談していない理由（複数回答）



お世話の悩みを相談した経験



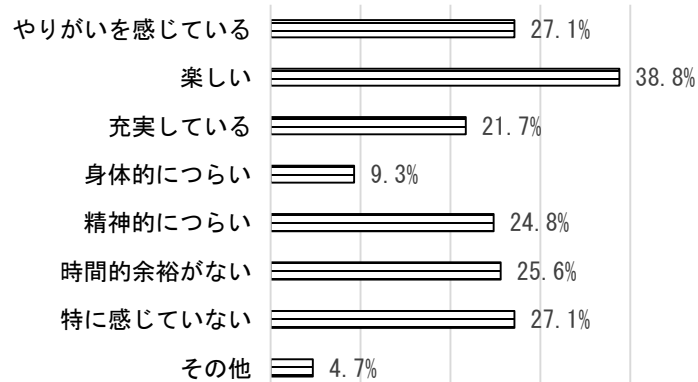
相談した相手、現状を知っている人（複数回答）

	相談した相手	現状を知っている人
家族	54.5%	-
しんせきの人	0.0%	38.2%
友人	54.5%	-
学校の先生	9.1%	17.6%
保健室の先生	9.1%	8.8%
SSW, SC	0.0%	2.9%
相談窓口（電話）	0.0%	-
相談窓口（SNS、メール）	0.0%	-
医師、看護師等病院の人	9.1%	8.8%
ケア、福祉サービスの人	0.0%	11.8%
役所、保健センター	9.1%	-
近所の人	0.0%	-
SNS上の知り合い	9.1%	2.9%
その他	0.0%	5.9%
知っている人はいない	-	41.2%

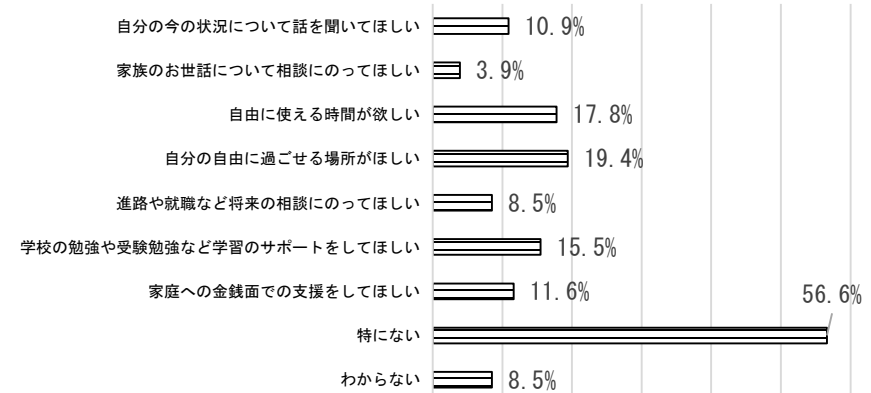
札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [中高生]

【中学生】 支援してほしいことは、「自分の自由に過ごせる場所がほしい」の割合が高い

お世話について感じていること（複数回答）

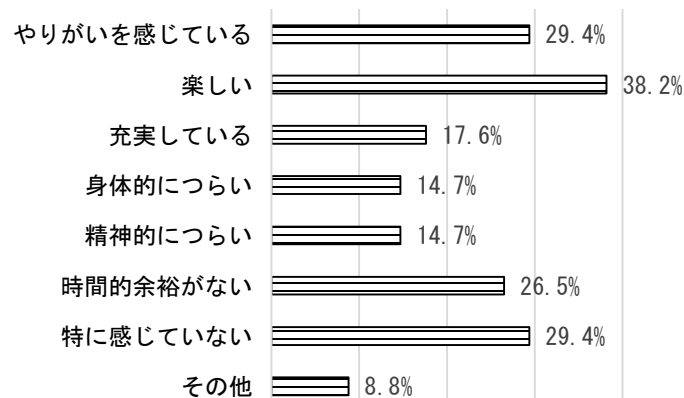


支援してほしいこと（複数回答）

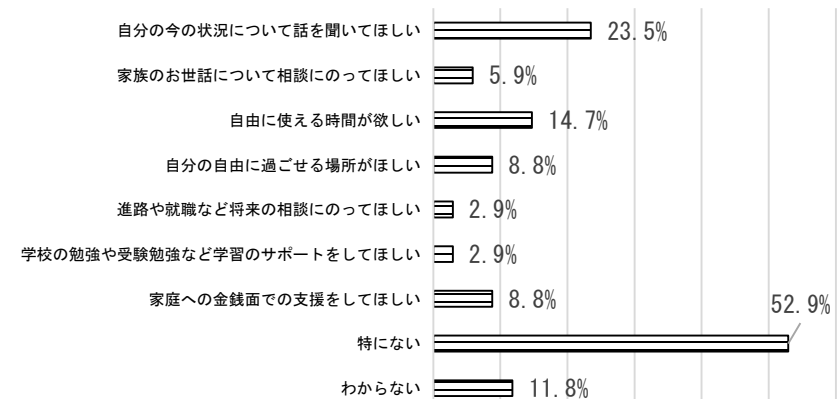


【高校生】 支援してほしいことは、「自分の今の状況について話をきいてほしい」の割合が高い

お世話について感じていること（複数回答）



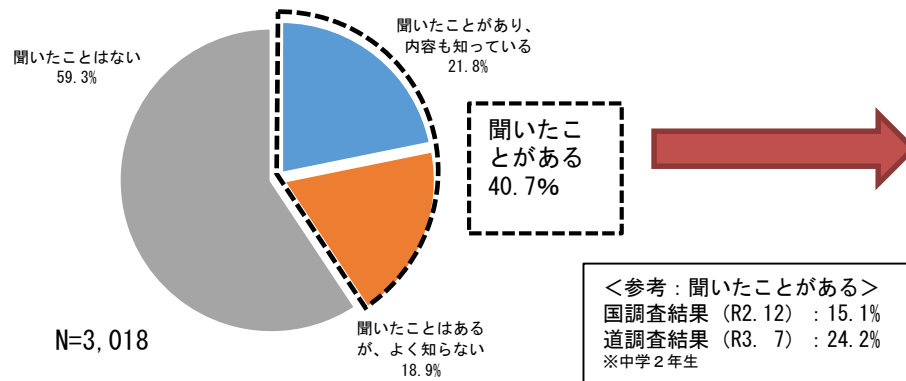
支援してほしいこと（複数回答）



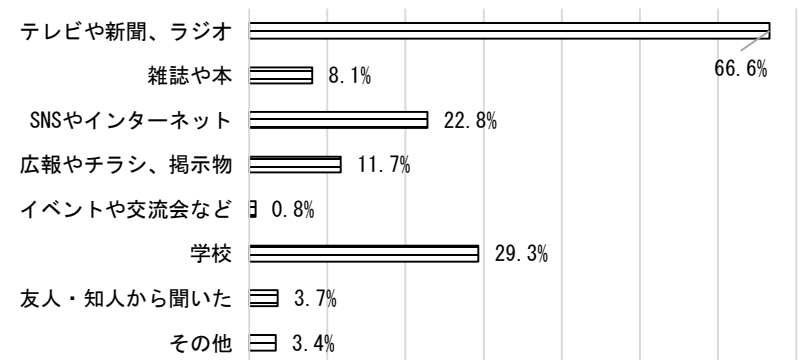
札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [中高生]

【中学生】 約4割が「ヤングケアラー」を聞いたことがあると回答

ヤングケアラーという言葉の認知度

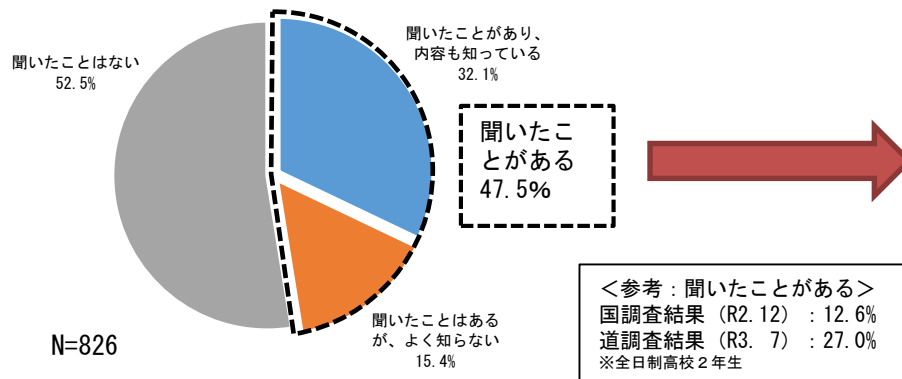


ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ

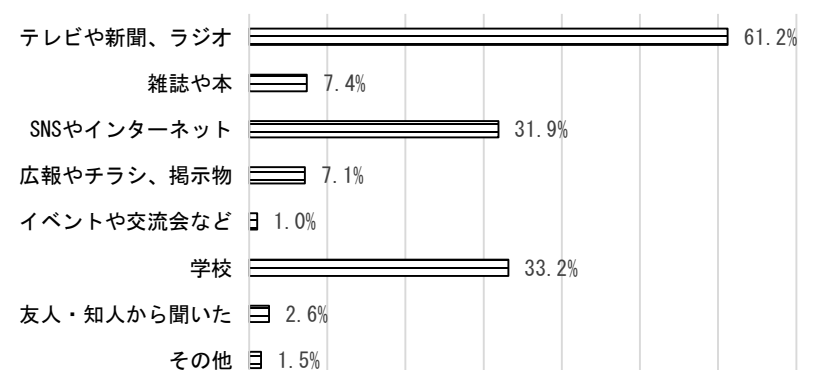


【高校生】 中学生に比べてヤングケアラーの認知度は高く、知るきっかけはSNS等が比較的高い

ヤングケアラーという言葉の認知度



ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ

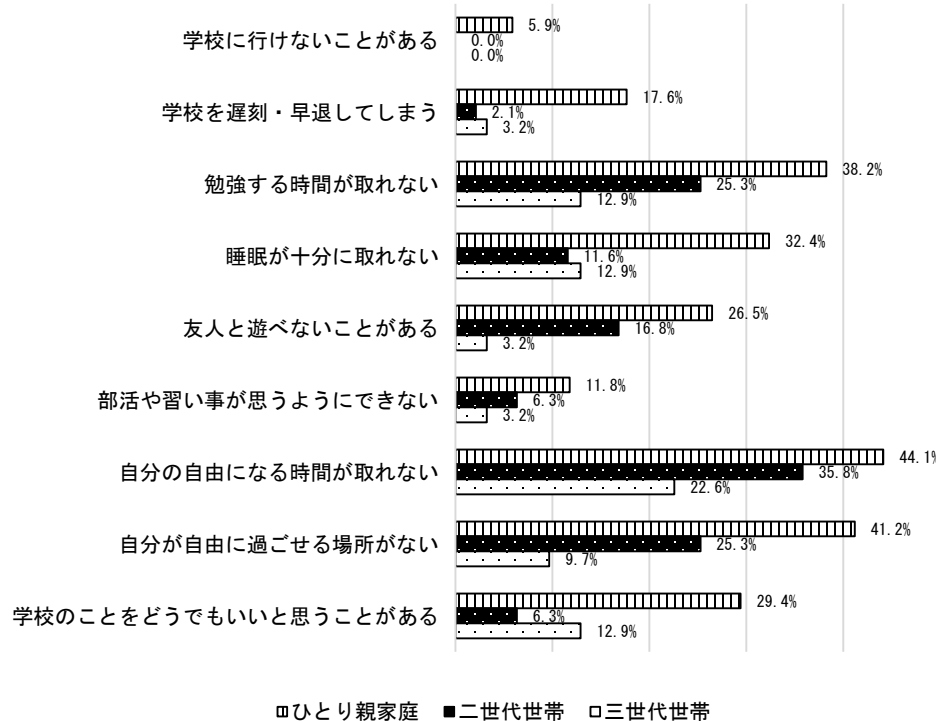


札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [中高生]

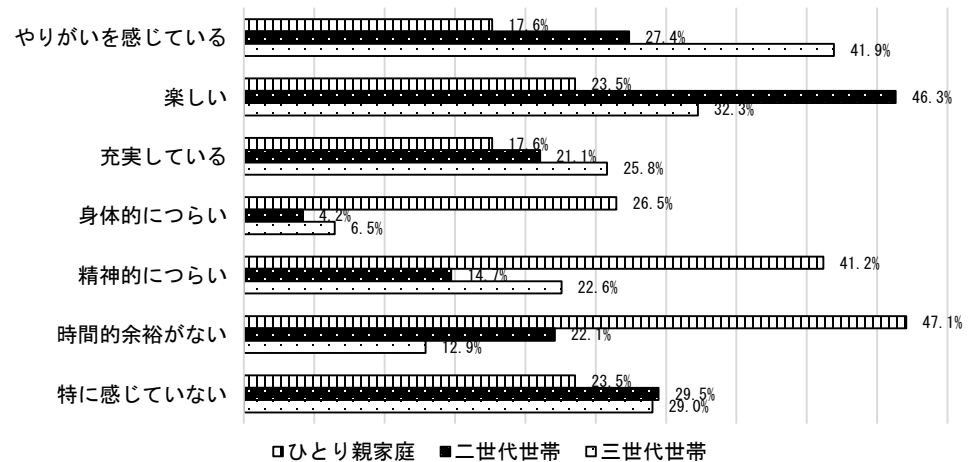
【追加分析1】ひとり親家庭の傾向（報告書26～28P）

- 「お世話をするることによる生活への影響」は、他の世帯に比べて「影響がある」と回答した人の割合が全体的に高い。
- 「お世話することについて感じていること」は、他の世帯に比べて「やりがいを感じている」「楽しい」「充実している」と回答した人の割合は低く、「身体的につらい」「精神的につらい」「時間的余裕がない」と回答した人の割合が高い。
- 「学校の先生や周りの大人に支援してほしいこと」は、他の世帯に比べて「特にない」と回答した割合が低く、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「自由に使える時間が欲しい」「自分の自由に過ごせる場所がほしい」「家庭への金銭面での支援をしてほしい」と回答した割合が高い。

家族構成 × 生活への影響



家族構成 × お世話について感じていること



家族構成 × 支援してほしいこと

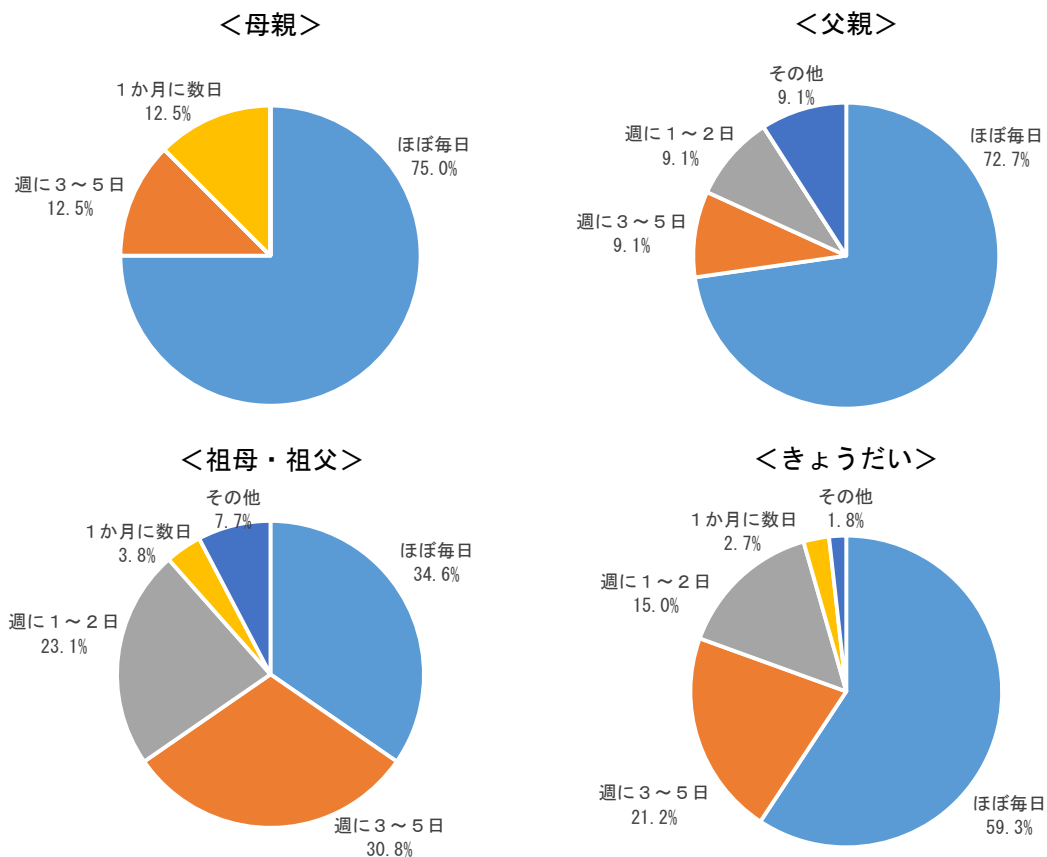
支援してほしいこと	ひとり親家庭	二世帯世帯	三世帯世帯
自分の今の状況について話を聞いてほしい	29.4%	6.3%	16.1%
自由に使える時間が欲しい	23.5%	16.8%	9.7%
自分の自由に過ごせる場所がほしい	26.5%	16.8%	9.7%
家庭への金銭面での支援をしてほしい	23.5%	8.4%	6.5%
特にない	35.3%	61.1%	64.5%

札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [中高生]

【追加分析2】お世話をしている人の傾向（報告書29～31P）

- お世話をしている家族が「母親」や「父親」の場合、お世話の頻度は「ほぼ毎日」の回答割合が高く、全体的に学校生活への影響があると回答した割合も高い。
- お世話をしている家族が「母親」の場合、「身体的につらい」「精神的につらい」「時間的余裕がない」と回答した割合が高く、「祖母」や「祖父」の場合、「やりがいを感じている」と回答した割合が高い。

お世話を必要としている家族×お世話の頻度



お世話を必要としている家族×生活への影響

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい
学校に行けないことがある	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%
学校を遅刻・早退してしまう	12.5%	18.2%	5.6%	0.0%	5.3%
勉強する時間が取れない	33.3%	18.2%	16.7%	12.5%	27.4%
睡眠が十分に取れない	37.5%	18.2%	16.7%	0.0%	15.9%
友人と遊べないことがある	20.8%	36.4%	5.6%	0.0%	17.7%
部活や習い事が思うようにできない	16.7%	27.3%	5.6%	0.0%	5.3%
自分の自由になる時間が取れない	58.3%	36.4%	38.9%	12.5%	34.5%
自分が自由に過ごせる場所がない	45.8%	36.4%	11.1%	12.5%	23.9%
学校のことをどうでもいいと思うことがある	20.8%	18.2%	22.2%	12.5%	11.5%

お世話を必要としている家族×お世話について感じていること

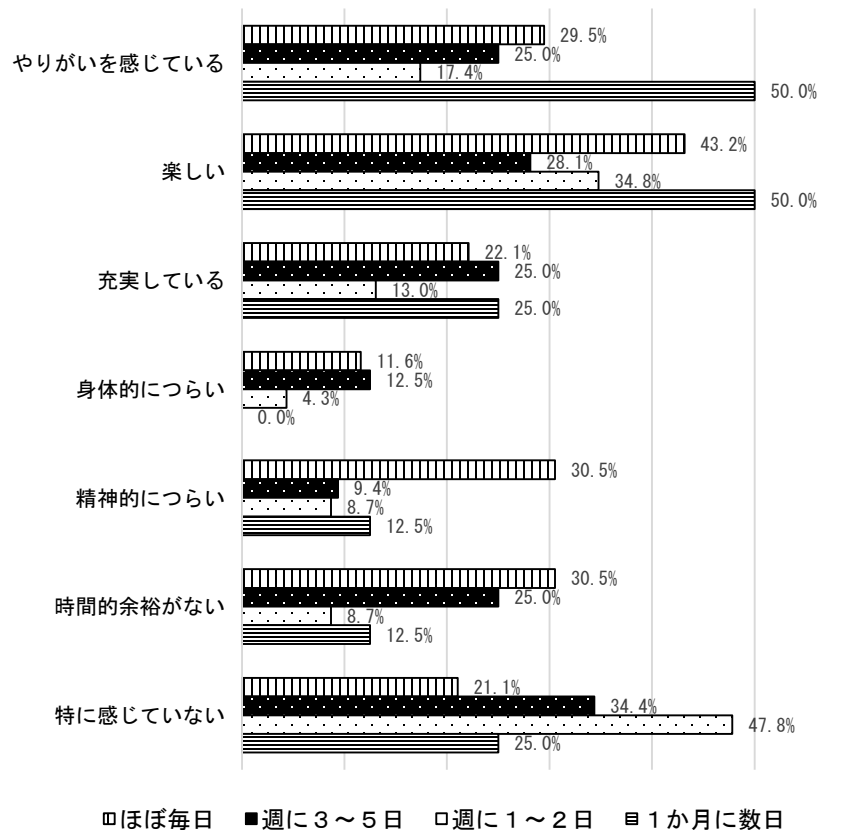
	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい
やりがいを感じている	20.8%	9.1%	38.9%	50.0%	27.4%
楽しい	16.7%	9.1%	22.2%	50.0%	44.2%
充実している	16.7%	9.1%	22.2%	37.5%	20.4%
身体的につらい	20.8%	9.1%	16.7%	0.0%	9.7%
精神的につらい	45.8%	45.5%	38.9%	0.0%	17.7%
時間的余裕がない	37.5%	18.2%	22.2%	0.0%	25.7%
特に感じていない	20.8%	45.5%	16.7%	25.0%	28.3%
その他	12.5%	9.1%	5.6%	0.0%	5.3%

札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [中高生]

【追加分析3】お世話の頻度の傾向（報告書32～33P）

- お世話の頻度が「ほぼ毎日」の場合、「精神的につらい」「時間的余裕がない」と回答した人の割合が高い。一方、「やりがいを感じている」や「楽しい」と回答した割合も比較的高い。
- お世話の頻度が「ほぼ毎日」、「週に3～5日」の場合、全体的に「大人に支援してほしい」と回答した割合は高く、悩み事や困りごとを回答した割合も高い。

お世話の頻度×お世話について感じていること



お世話の頻度×支援してほしいこと

支援してほしいこと	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日
自分の今の状況について話を聞いてほしい	14.7%	15.6%	8.7%	0.0%
家族のお世話について相談にのってほしい	3.2%	9.4%	0.0%	0.0%
家族の病気や障がい、お世話の仕方などについて分かりやすく説明してほしい	3.2%	3.1%	8.7%	0.0%
家族での相談や、話し合いのときにいっしょに参加してほしい。	2.1%	3.1%	0.0%	0.0%
自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスが欲しい	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%
自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスが欲しい	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%
自由に使える時間が欲しい	22.1%	12.5%	4.3%	0.0%
自分の自由に過ごせる場所がほしい	22.1%	12.5%	4.3%	0.0%
進路や就職など将来の相談にのってほしい	8.4%	6.3%	4.3%	0.0%
学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい	12.6%	12.5%	8.7%	12.5%
家庭への金銭面での支援をしてほしい	11.6%	9.4%	8.7%	12.5%
特にない	48.4%	56.3%	78.3%	87.5%
わからない	10.5%	9.4%	4.3%	0.0%

札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [中高生]

【追加分析4】お世話をするということについて感じていること（報告書34～38P）

- 「身体的につらい」と回答した人は、「睡眠が十分に取れない」と回答した割合が高く、また、進路について「進学先は自宅外から通えるところを選択しようと考えている」「就職先は、自宅外から通えるところを選択しようと考えている」と回答した割合が高い。
- つらさ等を感じている人は、相談経験が「ある」の割合が高い。また、相談経験が「ない」と回答した人について、相談していない理由は「相談しても状況が変わるとは思わない」「相談した相手を困らせたくない」と回答した割合が高い。
- つらさ等を感じている人は、お世話している現状を「知っている人はいないと思う」と回答した割合が高い。

お世話について感じていること×生活への影響

	学校に行けないことがある	学校を遅刻・早退してしまう	勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊べないことがある	部活や習い事が思うようにできない	自分の自由になる時間が取れない	自分が自由に過ごせる場所がない	学校のことをどうでもいいと思うことがある
やりがいを感じている	0.0%	2.2%	20.0%	15.6%	15.6%	4.4%	33.3%	22.2%	11.1%
楽しい	0.0%	0.0%	27.0%	11.1%	12.7%	4.8%	30.2%	25.4%	7.9%
充実している	0.0%	0.0%	29.4%	17.6%	11.8%	5.9%	35.3%	26.5%	11.8%
身体的につらい	11.8%	35.3%	64.7%	70.6%	35.3%	5.9%	70.6%	52.9%	52.9%
精神的につらい	5.4%	18.9%	54.1%	45.9%	40.5%	16.2%	73.0%	59.5%	29.7%
時間的余裕がない	7.1%	16.7%	66.7%	40.5%	38.1%	9.5%	85.7%	57.1%	28.6%
特に感じていない	0.0%	2.2%	8.9%	2.2%	8.9%	4.4%	13.3%	8.9%	6.7%

お世話について感じていること
×相談経験の有無

	ある	ない
やりがいを感じている	28.9%	71.1%
楽しい	28.6%	71.4%
充実している	26.5%	73.5%
身体的につらい	41.2%	58.8%
精神的につらい	51.4%	48.6%
時間的余裕がない	38.1%	61.9%
特に感じていない	15.6%	84.4%

お世話について感じていること×相談していない理由

お世話をするということについて感じていること	誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のこのため、話にくい	家族のこのことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わるとは思わない	相談しても状況を理解してもらえないと思わない	相談した相手を困らせたくない
やりがいを感じている	71.9%	31.3%	0.0%	3.1%	9.4%	6.3%	9.4%	15.6%	6.3%	12.5%
楽しい	71.1%	26.7%	2.2%	6.7%	8.9%	4.4%	2.2%	15.6%	2.2%	11.1%
充実している	72.0%	32.0%	4.0%	12.0%	16.0%	8.0%	4.0%	28.0%	8.0%	16.0%
身体的につらい	50.0%	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	10.0%	10.0%	50.0%	20.0%	30.0%
精神的につらい	33.3%	27.8%	33.3%	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	55.6%	27.8%	55.6%
時間的余裕がない	34.6%	19.2%	23.1%	26.9%	26.9%	11.5%	11.5%	53.8%	26.9%	42.3%
特に感じていない	71.1%	10.5%	5.3%	0.0%	7.9%	5.3%	5.3%	5.3%	7.9%	13.2%

札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [中高生]

ヤングケアラーからの要望や自由意見（報告書39～40P）

- 政府や自治体による支援、ボランティアなどによる手助けがもっと必要。
- みんながヤングケアラーの存在をしるために、もっと実態を伝えていくべき。
- ヤングケアラーが生まれる原因は、相談できる大人がいないことや、誰に相談したら良いのかわからないことにあると思う。
- 幼い兄弟がいて、家庭学習の時間がなかなか確保できない、勉強の邪魔をされる、睡眠時間が短くなるなど困っている。でも、小さい子は好きなので面倒を見ていて嫌になることはない。
- 子どもが家族をサポートするのはとても大変。そのことに気づいてくれる大人がいたら良い。
- 支援を広げていくのは良いが、怖いので、とても心配したり、家族のことを詳しく聞いてきたりはしないでほしい。

相談しやすい環境づくり

- ヤングケアラーの方たちが苦しい思いをしたときに、素直に相談できる場所をつくるのが大切。
- 本人が相談できる相手が必要だと思う。LINEなどを使うと相談しやすい。

学校におけるサポート

- 学校内でも友達同士で理解して助け合ったり、教員がサポートに回ったりといったこともできると思う。
- 必ず学生一人ひとりに家庭での三者面談が必要。そうすることで、虐待児童の確認もできて、家庭での相談できないことを持っている児童が減る。
- 私たちにとって一番身近な家族以外の大人である学校の先生にも知識や理解が必要。

周囲の大人の理解

- 大人と子どもたちの信頼関係を深めていくことが大切
- 「他人に迷惑をかけてはいけない」「家族が面倒をみないで他人に任せるのは可哀そうなこと」という大人の考えから、ヤングケアラーが生まれる場合がある。そういう考え方が変わって、助けを受けやすい社会になってほしい。

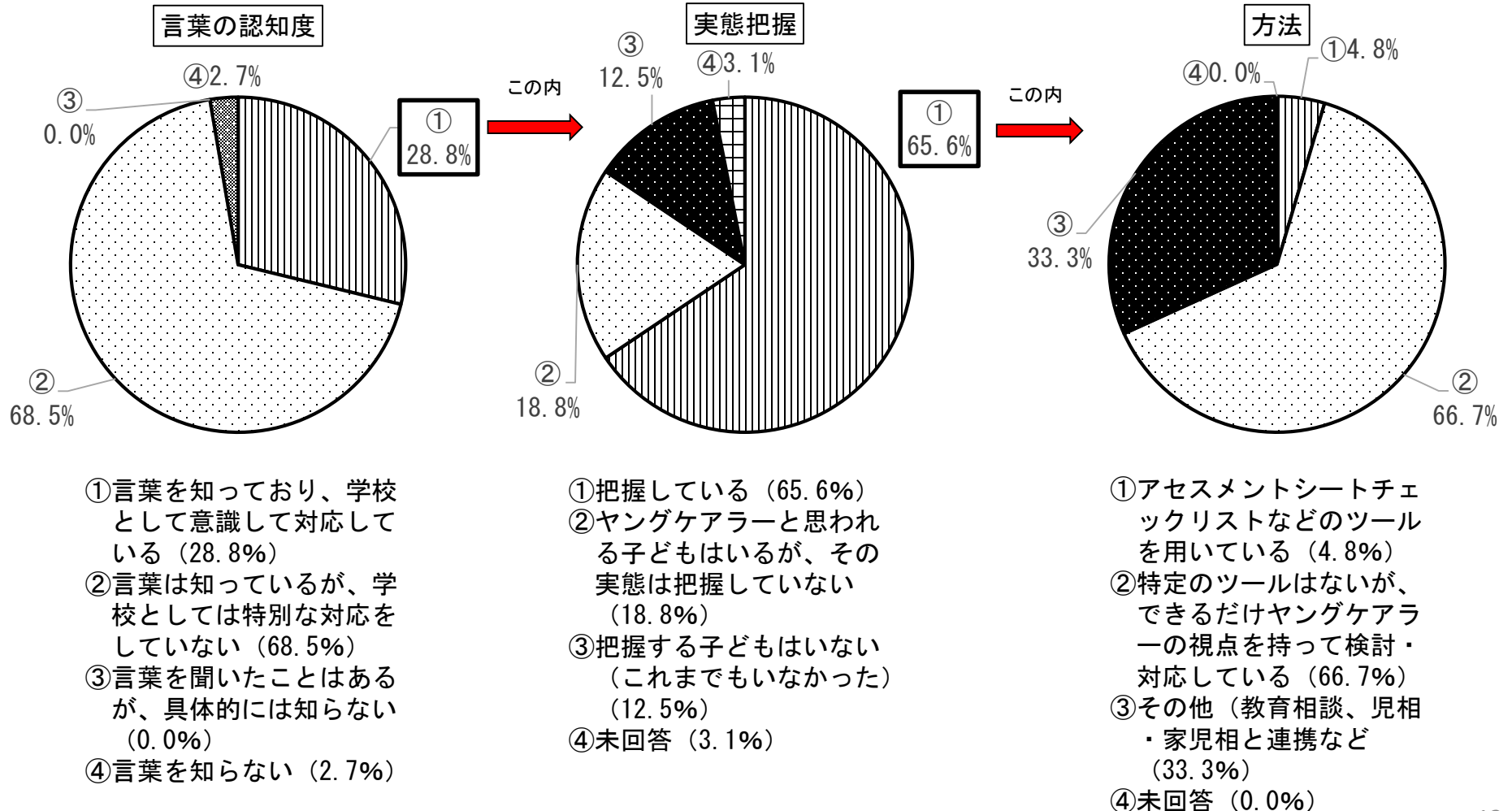
ヤングケアラーの普及啓発

- この質問があつて初めてヤングケアラーを知った。より知ってもらうため、ポスターや広告など広めることが必要。
- SNSで発信していったら若い人もよく見るので理解が深まる
- 学校での特別授業を行うなどして、ヤングケアラーをみんなに知ってもらうことが大切

札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [各学校]

意識して対応している学校は約3割で、このうち6割以上がヤングケアラーを把握している

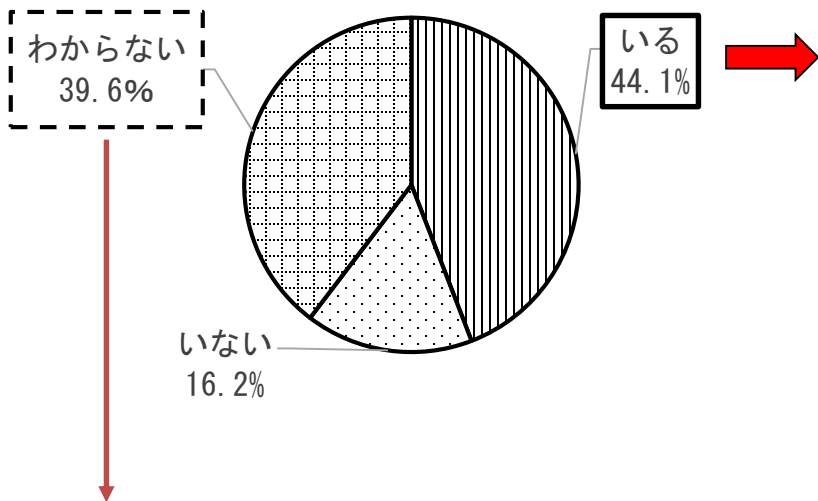
回答学校数：111校／112校（中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）



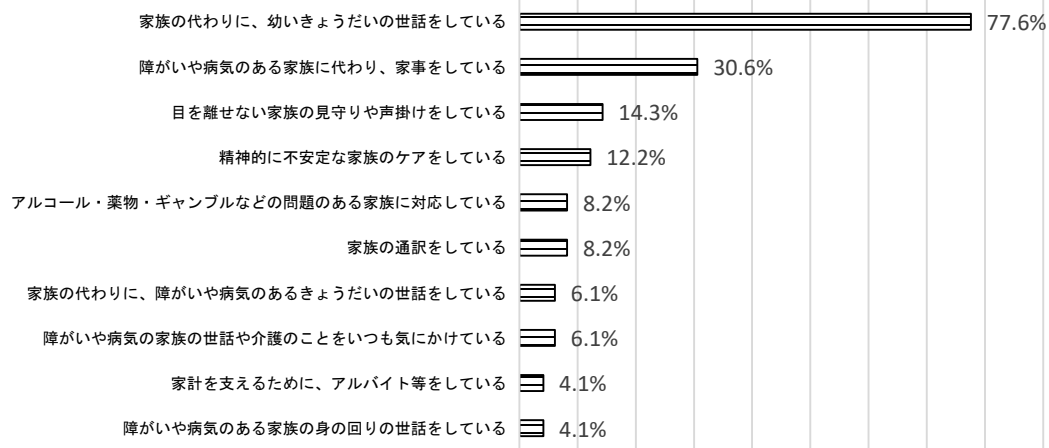
札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [各学校]

約4割がヤングケアラーの存在を把握し、その状況は「幼いきょうだいの世話」の割合が高い
「わからない」と回答した学校のほとんどが「家族のことで実態把握が難しい」と回答

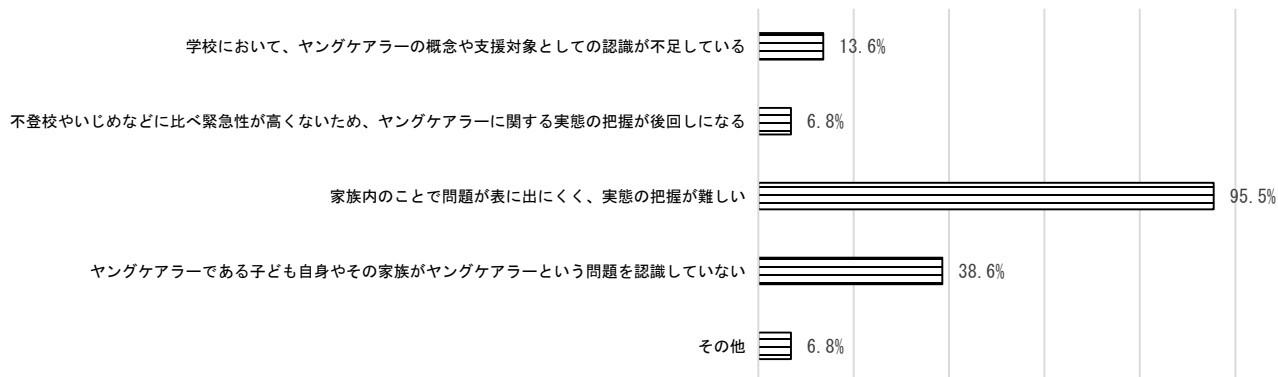
ヤングケアラーの有無



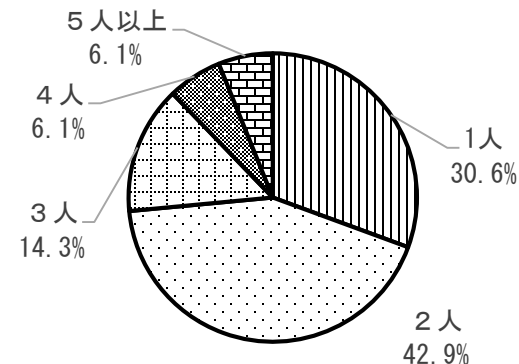
ヤングケアラーの状況



把握していない理由



ヤングケアラーの人数



札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [各学校]

外部の支援につないだケースでは、SSW・SC、区家庭児童相談室・児童相談所とのつながりが多い

区家児相又は児相に児童虐待通告したケースがある	18.4%
-------------------------	-------

[つながっていた機関]

医療機関や訪問医療	22.2%
介護保険や障がいなどの福祉サービス	11.1%
その他(児相、保護課)	55.6%
わからない	22.2%
未回答	11.1%



[つないだ機関]

SSW,SC	44.4%
その他(児相)	44.4%
各区の保健部門	33.3%
教育委員会	22.2%
民生委員	22.2%
各区の福祉部門	11.1%
教育支援センター(適応指導教室)	11.1%
医療機関	11.1%
未回答	11.1%
FS,子ども食堂などの民間団体・施設	0.0%
警察や刑事司法関係機関	0.0%

児童虐待通告の対象とまでは言えないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある	24.5%
--	-------

[つながっていた機関]

医療機関や訪問医療	16.7%
介護保険や障がいなどの福祉サービス	0.0%
その他(児相、保護課、アシストセンター、祖父母、SW)	58.3%
わからない	25.0%
未回答	8.3%



[つないだ機関]

SSW,SC	50.0%
その他(児相)	25.0%
各区の保健部門	16.7%
教育委員会	8.3%
民生委員	0.0%
各区の福祉部門	33.3%
教育支援センター(適応指導教室)	8.3%
医療機関	0.0%
未回答	0.0%
FS,子ども食堂などの民間団体・施設	0.0%
警察や刑事司法関係機関	0.0%

外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)	63.3%
----------------------------	-------



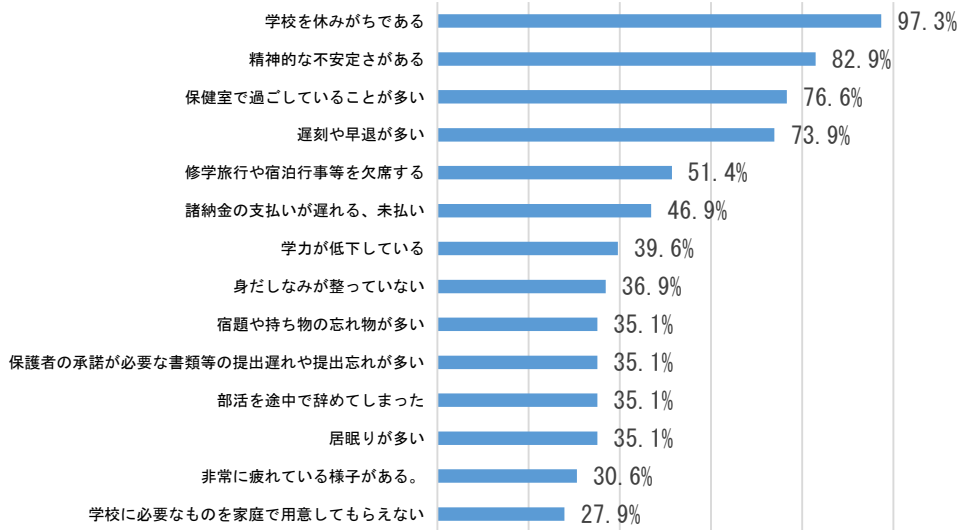
[つないでいない理由]

・本人納得の上でのことであり、過度な負担とはなっていないため
・家庭の状況を具体的に把握できていないため
・経過観察、把握中のため
・はっきりと判断できないため

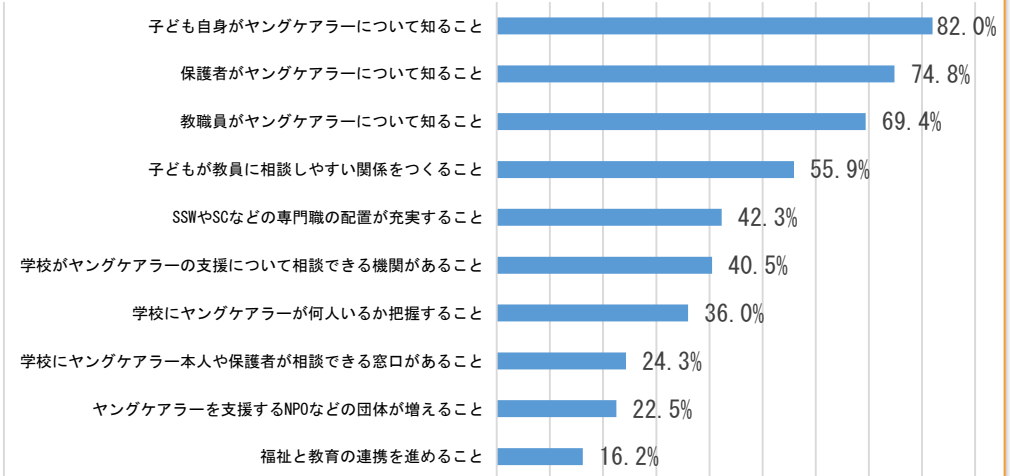
札幌市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について [各学校]

学校を休みがち、保健室で過ごすことが多いなど、支援が必要と思われる子どもには特徴がある

支援が必要と思われる子どもの状況



支援のために必要なこと



把握や支援に当たり工夫していること
[自由記載]

- ・子どもが自分の気持ちを表出することができるよう、コミュニケーションを大切にしながら、信頼関係を構築している。
- ・アンケートや相談などで状況把握に努めている。
- ・日常の学校生活について（欠席や遅刻の有無など）、注意深く観察する。
- ・認知した際には、学校での周知を行い、教育委員会等関係機関と連携を速やかにとる。
- ・家庭への介入は慎重に行うよう配慮している。
- ・見守りや声掛けを行い、情報の共有を図っている。
- ・行事に参加できなかった場合でも、疎外感を感じさせないように配慮している。

把握や支援に当たり難しいと感じること
[自由記載]

- ・保護者の協力が得られない。
- ・通常のお手伝いとヤングケアラーの線引きが難しい。
- ・家庭の問題に対して、学校がどこまで介入できるのか、判断が難しい。
- ・子どもが親をかばって本当のことを話してくれないことがある。
- ・子どもが助けを求めないことがある。
- ・表面化しづらい。
- ・正確な実態の把握が困難